

協議会ニュース 101号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2006. 7



ナメクジウオ 三河大島で天然記念物とされていたナメクジウオが消滅してから久しいと聞いている。

2002 年に私の住む高松沖に「とてもたくさんいる」と窪川かおる教授（東大洋洋研究所）から伺って驚いた。写真のナメクジウオは昨年6月、窪川教授が採集に来られたときいただいたものである。餌無しの水槽で1ヶ月生きていた。大きさは5~6cmで「大きい方」なのだそうである。

・海岸植物群落調査研修会

柳原靖 P2

・支部だより

知多支部春の研修旅行

牧野靖子 P4

名古屋大学設楽フィールドでの研修会

吉田彰 P5

定光寺の植物ガイド

大谷敏和 P6

・新加入員紹介

..... P7

・高木典雄先生に学んだこと

三津井宏 P8

・自然セレクション 犬山城園致林

齋竹善行 P9

・自然観察会～スタッフになろう&伝え方のヒント～

近藤記巳子 P10

・事務局だより

..... P11

・行事案内 他

..... P12

『海岸植物群落調査研修会』に 参加して

知多支部 榊原 靖

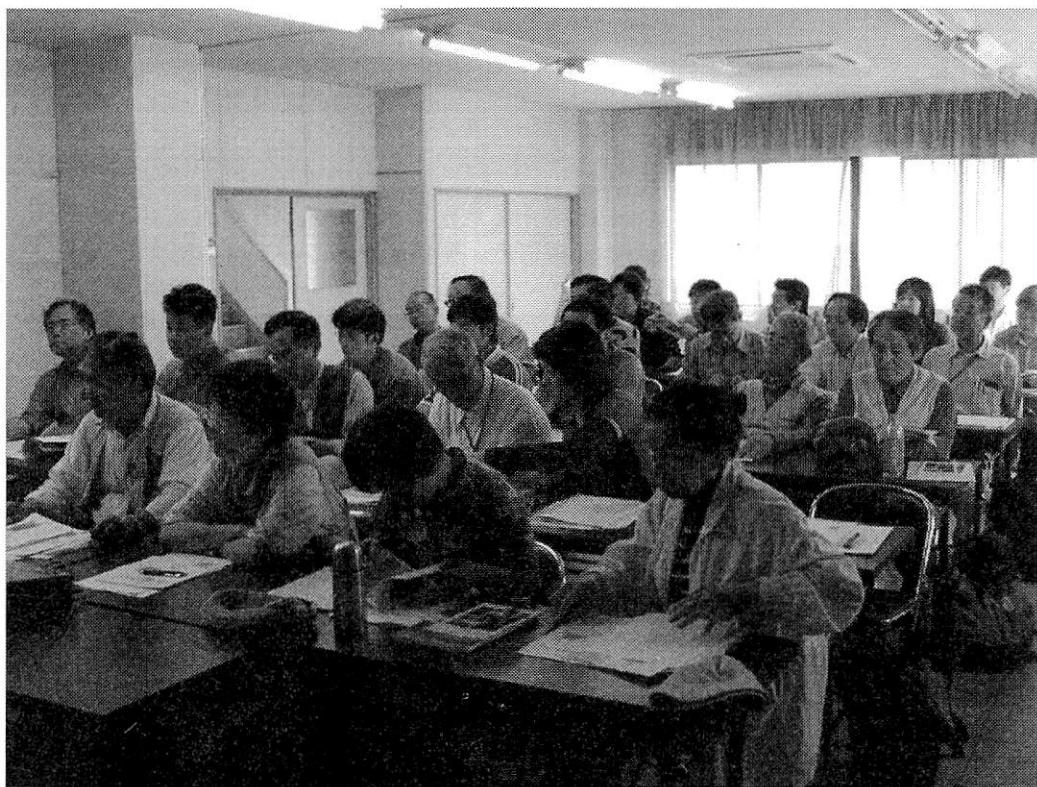
5月28日（日）、常滑市蒲池で、日本自然保護協会主催の海岸植物群落調査研修会が、県連絡協議会および知多支部の協力で行われました。

県内各地から33名の参加があり、内訳は知多22名（うち18名が自然観察指導員、以下同じ）、名古屋4名（3名）、西三河5名（3名）、東三河2名（0名）でした。

午前中は蒲池コミュニティセンターで室内研修です。はじめに保護協会の開発法子さんから挨拶と海岸植物群落調査の意義について説明がありました。保護協会が中心になって編纂した植物群落レッドデータ・ブック（1996）を解析した結果、特に海岸の植物群落が危機的な状況にあることが明らかになったことが、全国規模の調査のきっかけだそうで、2003年度から取り組んでいるとのことでした。続いて千葉県立中央博物館の由良浩さんから「海岸植物群落の特徴—特に砂浜の環境と海岸植物群落の関係—」と題して講演がありました。海でも陸でもない海岸という特殊な環境と、そこに成立する植物群落について説明があり、最後に海岸植物群落が危機に瀕するに至った原因についても触れられました。

朝方降っていた雨も上がって、いい天気になったので、昼食は海岸でとることにしました。

昼食後は、蒲池海岸で実物を観察して、海岸植物を覚える研修です。その前に階段状のコンクリート護岸に座った参加者に、由良さんから調査シートの記入方法について説明がありました。実際に海岸の様子を見ながら具体的に記入方法の説明がされたのでわかり易かったのですが、遮るものない強い陽射しのせいで、暑さが少々気になりました。自然観察会では、生き物の名前は二の次で名前にこだわった観察会はできるだけ避けるように、いう方針なのですが、今回はそれぞれの参加者が分担を決めて調査を行うことが目的なので、とことん名前にこだわります。蒲池海岸は海に囲まれた知多半島の中でも海岸植物が豊富に見られるところです。由良さんや植物に詳しい地元の指導員の後について目に入る植物を片っ端から見て回りました。ハマダイコン、コマツヨイグサ、オオフタバムグラ、ハマオモト、ハマヒルガオ、ハマゴウ、ハマボウフウ、スナビキソウ、ハマエンドウ、コウボウムギ、コウボウシバなど多くの種類を観察

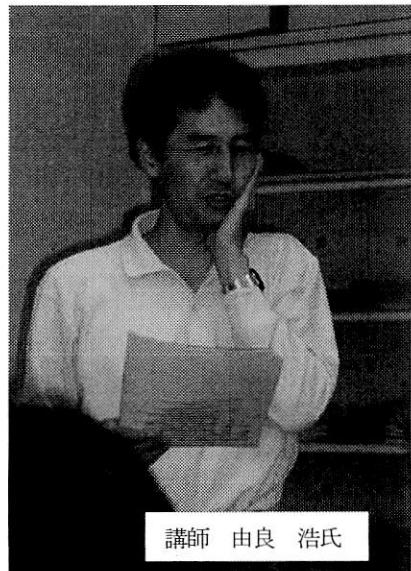


しました。

最後に蒲池コミュニティーセンターに戻って、愛知県の海岸植物群落調査の分担を話し合いました。あらかじめ用意されていた調査候補地の書き込まれた地図を参考にして分担が決められました。参加者が多数いた知多地方は順調に決まったようでしたが、少數だった三河や渥美は大変だったかもしれません。

保護協会からお越しの3人（開発さん、由良さんと調査データの入力を担当しているという宮崎さん）は、前日（27日）、知多に入られたのですが、宿泊先（常滑市大野の老舗旅館、大野の港が栄えていたころからの宿だから当然古い。しかし、ビジネスホテルなんぞよりもよほど気が利いていると思う。）を手配した知多支部の降幡代表のはからいで、夕食を兼ねた懇親会が知多支部有志（延べ8名ほど）の参加で行われました。食卓に供されたクロダイの塩焼きを解剖して「タイのタイ」探しに興じたり、夜中、近所にある天然記念物の大樹を見に出かけたり、宿の主人も面白がって朝食に「イカリボウフウ」（ハマボウフウの葉柄を針で裂いて水に浮かべておくと裂けた葉柄が反り返って船の碇のようになる）を出してくれたり等々、客人からすると印象に残る知多来訪だったと思われます。

後日、開発さんから送られたお礼のメールの一節に曰く
「前夜からの懇親会で、知多支部のみなさんのパワーにはびっくりしました」とありました。



講師 由良 浩氏



午後の研修風景

知多支部 春の研修旅行

三重県の自然を訪ねて 伊賀～青山高原

知多支部 牧野靖子

毎年5月と10月に行われる恒例となりました知多支部研修旅行。今回は、5月20日（土）～21（日）に三重県の伊賀上野、青山高原などの自然を観察しました。参加者11人でいつもよりやや少な目だったのが残念でしたが、驚きの発見や美しい自然との出会いに心弾む2日間を過ごすことができました。

5月20日（土）7:30 東海市を車2台にて出発。まずは上野森林公園で三重県自然観察指導員連絡協議会の企画したネイチャーエクスプロアリングに参加しました。ネイチャーエクスプロアリングとはグループでネイチャーサインカードの指示をもとにコースを回りながら五感を使って自然を探勝するゲームです。三重県自然観察連絡協議会会长の加藤氏とともに全行程4時間のところをスケジュールの関係で2時間程度に道をカットし回りました。ここでは農薬散布がないことから多くの昆虫に出会うことができました。一番多く目にしたのがマツの葉を食べるマツノキハバチの幼虫です。かなりの食害を受けていましたが、この幼虫がマツの木に致命的な打撃を与えることはないそうです。その他オトシブミの巻いた葉、ヨコヅナサシガメ、タイコウチ、キバネツノトンボなどがいました。植物は、ツツジやハルリンドウ、カマツカの花が美しい彩りを添えていました。

その後、高倉神社の境内のシブナシガヤ、アヤマズズを見に行きました。シブナシガヤはこれか？？とよくわからず、更に果号寺へ進み国の天然記念物シブナシガヤを確認しました。その実を拾い食したところ樹脂のような風味がありクセのある味でした。

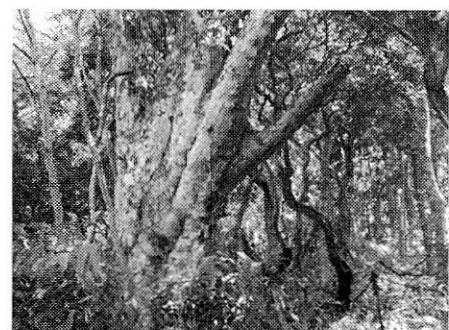
上野城では、ムクロジの実が落ちて果肉の部分が発酵臭を放っていました。そしてまたまたヨコヅナサシガメに遭遇。ここでは脱皮したての胴の部分が朱色の美しい成虫を発見しました。伊賀の街は、町あげてのイベントだったようで夜のアルコールとつまみの名物「養肝漬」を買い、宿泊先の大坂市立伊賀青少年野外活動センターへ向かいました。

伊賀青少年野外活動センターでは夕食後、灯火採集を行いました。かなり寒い夜だったのであまり期待はしていませんでしたが、オナガミズアオ1匹、その他小さなガやトビケラ、ハチの仲間などがやってきました。

21日は、青山高原に向かいました。青山高原では、奥山愛宕神社へ向かう予定だったのが、道を間違え入っていったところにモリアオガエルと水生昆虫の楽園があり、モリアオガエルの親、卵塊、アカハライモリ、ミズカマキリ、マツモムシ、知多半島ではほとんど目にすることできなくなったミズスマシなどを観察しました。

その後、無事愛宕神社を見つけることができ緑のアップダウンの回廊を神社を目指し観察しながら進んでいきました。この付近の原生林は県指定の天然記念物に指定されており、北斜面の見事なブナの木、アセビやヤマツツジのトンネル、リョウブの樹のシカによる食害などを観察しました。また、岩陰からタゴガエルの声も聞こえました。

帰り道では、鈴鹿の金生水沼沢植物群落へ迷いながら到着。この湿原は、乾燥化が進み地下水をポンプで供給する措置がとられていました。植物は調査の痕跡はあったものの湿生植物を見るることはできませんでした。貴重な自然が残りますように…と願いながら帰路につきました。



(愛宕神社付近のブナ)

名古屋大学設楽フィールドでの研修会

西三河支部 吉田 彰

私たち西三河支部は、5月13日(土)～14(日)に、「名古屋大学大学院 生命農学研究科付属 フィールド教育研究支援センター 設楽フィールド(通称:設楽フィールド)」に研修目的で行つきました。

参加者は合計15人(うち宿泊8人)で、一部に他支部からの参加者もあり、これまでになく、西三河支部の研修会としては盛況なものとなりました。

ここ「設楽フィールド」は、元「草地研究所」の名のとおり、主に牛などの畜産研究の施設なのですが、指導教官の「織田助教授」の懐の深いところから、現在のように野生動物の研究に关心の高い学生が集まっているのです。

5月13日(土)は、設楽フィールド内の施設を案内いたいたあと、「四国におけるトガリネズミの分布について:森部 紗嗣さん」、「西三河北部のカメの生息調査について:岡田 有季さん」と2件の院生による講演(研究発表)を聴講し、モグラのトンネルや小型ほ乳類のトラップ(わな)の設置について実地見学、そして夜は、こちらで研究をされている院生や職員の方との懇親会(はたしていつ終わつたのか…?)。

翌5月14日(日)は、前日仕掛けたトラップの回収と設楽フィールド内で観察会&散策を行い、昼食のあと解散となりました。

トガリネズミの研究発表は、地域的に分断されているトガリネズミの分布の理由について、氷期・間氷期を繰り返す地球の環境変化との関連性が考えられることを教えていただき、また、西三河北部のカメの生息調査の研究発表では、イシガメなどの在来種とアカミミガメなどの外来種の分布状況のみでなく、生息場所周辺の森林率と各池の雌雄別生息数(カメ類は卵の時の温度により雌雄が決定されます。)との関係を、調査によって明らかにしようとする試みについての発表でした。意外だったのが、私たちが見かける機会の多いアカミミガメですが、実際にわなをかけ捕獲してみるとそれほど多くないとのこと。アカミミガメは「甲羅干し」を好む性質からよく見られるのでは?とのことでした。

また、ここ設楽フィールドでは、自治体や警察から保護(?)依頼を受けた、カミツキガメやワニガメが十数匹飼育されています。特に名古屋市内で捕獲された巨大なワニガメを見せられたとき、もし、このワニガメが水辺で遊ぶ子どもに噛みつきでもしたらと思うと背筋が寒くなる思いがしました。このワニガメはおそらく飼いきれなくなって逃がされたものでしょうが、危険な生物を野に放す愚かな哀しい行為に怒りさえ覚えました。

今回の研修会は、野生動物の研究者の視点を知つていただくとともに、彼らとの交流と会員相互の懇親を目的としたものですが、ふだん私たちの目にすることのできない野生の動物の世界が、人間の無知によつて外来種により改変されているのか、あらためて認識いただけたかと思います。

企画した担当者としては、一応大成功と自画自賛していますが、これも設楽フィールドや参加者の方々の協力があつてのこと。今回の研修会に協力いただいたみなさんに感謝しつつペン(?)を置かせていただきます。『みなさん。ありがとうございました。』



(研修会の終わりに撮った記念写真)

定光寺の植物ガイド

尾張支部 大谷 敏和

4月に林野弘済会から定光寺の植物ガイドブックが発行されました。執筆・写真提供に定光寺自然観察会および尾張自然観察会のメンバーが関わりました。定光寺の植物図鑑作りの相談があったのは昨年の10月11日で、我々メンバーと打ち合わせたのが10月28日でありました。完成まで5ヶ月位しかありませんでした。今まで撮りためた写真があるので簡単に引き受けました。でも、たくさんの写真の中からどれを使うのかの選定はそう簡単ではありませんでした。ある種類の植物は、新芽や花や実など何枚もあるのに、ある種類は花だけだったり、実だけだったりして、スライド写真まで探しました。でも自分の持っているスキャナーで取り込んでみると1枚取り込むのに相当な時間がかかり、時間短縮すれば画質がかなり落ちました。結局は仲間にSOSを発することになりました。葉と実がついた写真を撮るために、山を探し回ったこともあります。

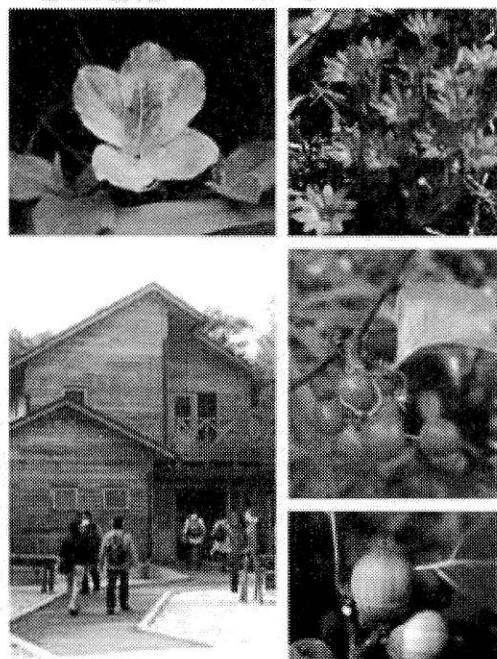
一番頭を悩ませたのがコースごとの植物目録作りでした。全体の目録はあるもののコースごとの目録はありませんでした。葉が落ちれば名前を調べるのが難しくお手上げ状態でした。でもメンバーが何度も何度も足を運び「これは・・・」と相談する中から仲間意識を持つことができ、みんなで作りあげたという実感をもつことができました。みんなで歩いている時がとても楽しいひとときでした。

数ある種類の中でコースに何をのせるのかを時間をかけて選びました。この作業が終わってやっと原稿書きの始まりです。一般的な説明はできるだけさけました。いろいろな人が関わったのでいろいろな見方で説明文が書けたと思います。

定光寺自然観察会で、民地の中に入り、地主さんからしかられたこともありました。自然観察会は、地元の理解協力なくしてできないことだと思っています。尾張自然観察会の山田会長以下みんなでいろいろなところに挨拶に行きました。地域と密着した観察会にしていこうとみんなで確認しあいました。最後にすばらしい機会を与えてくださった方、会員からの温かいご支援に感謝いたします。

定光寺自然休養林の散策ブック

定光寺の 植物ガイド



財團法人 林野弘済会名古屋支部

昨年秋の自然観察指導員養成講座以後に、5名の方が新しく愛知県自然観察指導員連絡協議会に加入されました。このうちの三名から自己紹介をいただきましたので、掲載させていただきます。

福岡 静子（名古屋支部）名古屋市緑区

初めまして！名古屋市緑区の福岡静子です。

中京競馬場駅の近くの里山で「太将ヶ根ざわざわ森クラブ」という所で、第三日曜にいろいろやってます。下草刈り、せんてい、春は竹の子、夏は茶つみ、秋は柿の実とり、お月見、冬はもちつき等、もりだくさんです。子ども会から老人会まで、太子学区の方々と自然とかかわり、自然にやさしい、思いやりのある方々が増えるといいなあと思ってます。

今回の指導員を頂くのに、何回もはずれて八年ぐらい過ぎました。もっと早くにとれないと、若々しくて、もっと皆さんといっしょに活動できたかと思います。もう年とって、遠くまではなかなか行けないかも知れません。もっと、早く指導員がとれるようになると良いと思います。

日比 理智（尾張支部・東三河支部）愛知郡東郷町



関心のある自然の分野：河川の仕事をしているため、河川環境に一番関心があります。

鳥類、魚類、昆虫、植物など、どれも関心がありますが、特に鳥類と魚類が好きです。

毎週、娘と一緒に色々な自然観察会や探鳥会に参加し、生物たちを観察したり、写真に撮ったりして楽しんでいます。

出没する自然観察会等：日進岩藤川自然観察会、東三河自然観察会定例自然観察会、東郷町グリーンベルト自然観察会、天白川で楽しみ隊、平針探鳥会、東山植物園探鳥会など。

辻 愛子（尾張支部）名古屋市名東区



木々に囲まれた自然の中にいるととても心が落ち着きます。

人間も自然の一部である気がしていますが、自然を観察することで自然のしくみを知ったり、感じられたら、人間である自分の役割ももっと見えてくるのではないかという思いで、参加させていただいております。

いつも先輩方には観察会で自然に直接触れながら、いろいろと教えていただくことができ、とても嬉しく思っています。

自然と手をつないでいきたいです。

以上の3名の他に池田賀津子さん（西三河支部）、廣岡貴志さん（名古屋支部）の、お二人も加入されています。みなさんのご活躍を期待します。

高木典雄先生に学んだこと

西三河支部 三津井 宏

(鳳来寺山自然科学博物館学術委員)

私は大学時代から起算すると 49 年間も高木先生の指導を受けてきた。とくに先生が植物部門の主任を務めておられた鳳来寺山自然科学博物館では末席ながら私が推薦されて 40 年近くもご指導のもとに活動させてもらった。先生の博物館への足となったのは私の自家用車で、名古屋のお家、岡崎のお家、どちらも数え切れないほど送迎した。車の中で今から述べるような、いわゆる高木哲学と呼べるような一連の話、植物を観察する態度、観察の楽しさなどを教えてもらった。先生は山道や野原の途中で少しでも興味を感じた植物があればすぐに車を停めさせて納得するまで観察された。先生の一番好きな言葉は「みちくさ」「道草」であり、いつも周囲に油断なく目を光らせていて興味、疑問点を見つけるように努力されており、解決したときの喜びを心の糧としておられた。

先生は世界的に名前で知られたコケ植物の研究者であるが、不思議なことに私も含めた、いわゆる凡人にはコケの話はされない、それは話しても本気で聞いてくれないからだそうで、ごくありふれたコケ、印象的なコケについては話される。先生は植物分類学を長年講義されて来たこともあるって植物全般にわたっての幅広い知識を持っておられるために一般人にはコケ以外の植物の話をされるのが普通であった。

先生はさまざまに興味を示され、資料や標本を 30 ほどに分類されて、それぞれ番号のついた段ボール箱に収めるようにしてあった。しかもそれぞれの箱には何が入っているかの台帳が作ってあった。1 番が植物、2 番が動物で肝心の専門であるコケは 24 番だと聞いた覚えがある。急に先生の家に押しかけて「○×△の資料はありませんか」とお願いしても、多くの場合 5 分以内に探し出して下さる。これは手品、魔法のような鮮やかさと言ってよいだろう。

先生のコレクションはマメ、ドングリ、マツカサ、ヒヨウタンなどの植物に限らず、世界中の塩、世界中の砂、各種の魚の胸鰓の付け根にある魚の形をした骨などがある。

また地図のコレクションもかなり熱心で中心に北極が位置している北欧の地図、南が上に位置しているオーストラリアの地図(これは私が頼まれて買ってきていたもの)がある。また古代ローマでは東洋に対する強い憧れがあったので東、すなわちオリエントが上に位置する地図があったという。オリエンテーション、オリエンテーリングは何かを目指す意味が含まれているに違いない。また富山県の観光地図は南が上になっているものがあり、各地の観光地にある観光案内の看板も東西南北のみならず北北東に向いた看板があつても不思議ではない。先生は漢字の起源、成り立ち、意味に関しても深い興味を持っておられ、そのような書物のコレクションもされていた。

先生の方針は自然に親しむ第 1 歩は物の名前を覚えることであり、博物館主催の自然観察会では植物の名前を、そしてそれを観察する楽しさを話された。これは 1 つの植物に親しむことから出発して自然を大切にしようとする気持ちを育てようとするものであったように私は思う。先生が植物を観察しておられる写真をつけておくのでその人柄、雰囲気を偲んでほしい。



(在りし日の高木典雄先生)

犬山城風致林

尾張支部 齋竹 善行



明治村、モンキーパーク、木曽川の鵜飼、日本ラインくだりなどに多くの観光客が訪れる犬山市。木曽川のほとりに建つ犬山城も観光スポットの一つになっています。

この犬山城は日本最古の天守閣を有する城で、別名「白帝城」とも呼ばれ、国宝に指定されています。

この城の周りにシイやカシを主体とした照葉樹林があり、「犬山城風致林」と称されています。遠くからは何の変哲もない林のように見えますが、東側あるいは北側からながめてみると木曽川の断崖の上に立地していることがわかります。これは、中・古世層の地質で、岩盤がむきだしになっているところも見られます。

城の西側を中心にして樹高20メートルほどのスダジイが優占し、カシの仲間もアラカシ、シラカシ、ツクバネガシ、アカガシ、ウラジロガシがそろい、大きなクスノキも生育しています。林床は光が射し込まずほとんど落ち葉だけのところと、多少明るくてサカキ、アオキ、ヤブコウジ、マンリヨウなどが生えたところがありますが、空間はほとんど樹木で覆われて、極相と考えられる自然林となっています。なお、部分的にはムクノキとエノキの林、カエデの林となっているところもあります。

外から眺めただけではわかりませんが、文献では、ヒツバタゴ、ハナノキなどのほか、希産種のキサギゴケもあるとされており、また、5月末から6月にかけてはヒメボタルも見られると

のことでの貴重な自然環境を形成しています。

しかし、花の美しい植物が多いわけでもなく、城を訪れる人で、この鬱蒼とした林に関心を持つ人は多くないものと思われます。

林の周りは柵あるいは鉄条網で囲まれ、関係者以外立ち入りは制限されていますので、東側を流れる郷瀬川右岸の歩道から、木曽川沿いの北側の道路（車に注意）から、あるいは南西の犬山城入口への通路から眺めることになります。

犬山へは自然観察会が開かれる善師野や本宮山に行かれたこともあるかと思いますが、指導員の皆さんで犬山城風致林に行かれたことのある方は少ないのではないでしょうか。犬山城の近くに行ったら、散策してみるといいかもしれません。

■所在地 犬山市犬山北古券

■アクセス 名鉄「犬山遊園」駅下車。
西へ徒歩10分



自然観察会

～スタッフになろう！
& 伝え方のヒント～



名古屋支部 近藤 記巳子

■ スタッフになろう

「自然観察指導員」を 観察する！？

相生山緑地自然観察会を立ち上げた頃、当時の名古屋支部長によくいわれたものです。

「また会ったね。観察会で、いちばんよく会うのは近藤さんだね～」と。

当時、名古屋支部の観察会は4～5箇所程（現在は11箇所）でしたが、全てに参加しようと思えば、毎週外出することになります。目的は自然観察ではなく、他の自然観察指導員がどのような進行をし、どんな内容の話をするのか、それを知ることになりました。

淡淡と説明をする人、専門用語を駆使して説明する人、笑顔で進行する人等々。動植物のそれぞれの特徴や相違点を細部にわたって話し、かつリスト作成するようにひとつひとつ名前をあげていく指導員がいるかと思えば、その生きもののじっくり観察することを主として名前にこだわることなく進行する指導員もいました。また、小道具の取り入れ方や、段取りの仕方などが、客観的に見えてきました。観察会の運営法、また話し方・表情・テクニック・資料の作成法など、「なるほど！」「いいな～」と思ったことは、全てお手本です。そのまま真似るのはなく、自分なりにアレンジしてみるのもいいでしょう。

自分が係わっているフィールドや観察会は、誰しも一番愛着があるものです。しかし、時には他の観察会に参加して、その会のノウハウを学ぶのはいかがでしょう。あるいは、「一参加者として純粹に、思いつきり楽しむ」のも、いいかもしれません。

■ 伝え方のヒント

みんなで調査！ 子どもも 大人も

調査というと、つい大変な作業や特殊な生きものを思い浮かべます。しかし、身近な環境で、誰もが気軽にできる調査もあります。夏ならば、セミの抜け殻調査がその代表的なものです。以下に、ある日の観察会の様子をスケッチします。

スタート時に、セミの抜け殻のサンプルを示すと共に、探し方のヒントを伝えました。子どもたちは嬉々として抜け殻を探し、思いがけない所にある抜け殻を発見するのは、大抵子どもたちです。

一定の時間が過ぎたら全員集合。ここで、参加者と一緒にどんな種類のセミなのか、またその比率を確認します。さらに特徴や、相違点、オス・メスの見分け方などをそれぞれ観察。

その後、参加者に「集まった抜け殻を見て、一言どうぞ」と、促しました。

「クマゼミが多いですね～。私が子どもの頃は、滅多に見たことがない」「クマゼミを捕まえるとうれしくってね～」どちらも大人の発言、年代が反映されています。

さらに、質問を重ねました。

「なぜクマゼミが多くなったのでしょうか？」

参加者からは、さまざまな意見がありました。小学3・4年生の子どもたちからは、地球温暖化という発言もとびだしたりします。参加者自らが、自然と人の営みが密接であることや、ライフスタイルを見直すという気づきがあれば、調査は効果のあった伝え方といえるでしょう。

参加者と一緒に調査では、初めての参加者を常連さんがフォローするというほほえましい光景にも出会います。参加者と自然観察指導員という距離も一気に縮まり、円滑な運営という副産物付です。さあ、みんなで調査を！

さてみなさんなら、どんな調査を試みますか。

■ 「海辺の自然」完成！



(財) UFJ 環境財団からの委託によって、当協議会会員の協力により「海辺の自然」が完成しましたので、報告します。

この冊子は、愛知・三重・静岡・石川・福井の中部地方の海辺の自然の概要をまとめたものです。海辺の自然の仕組みをはじめ、各地の海辺の自然が紹介されています。季節がら海に行く機会も多いかと思われます。是非、この冊子を持って出かけてみましょう。今回の機関紙「協議会ニュースNo.107」に、「海辺の自然」を同封します。

(尚、5月の NACS-J 主催の「海岸植物群落研修」出席者には、当日の研修で手渡し済みです)

また、長年の調査をまとめた「ブナ科調査報告書」を同時に同封します。

(尚、「ブナ科調査報告書」については、総会出席者には、すでに配布済みです。)

■ =会費納入= 忘れていませんか？



会員のみなさん、会費納入は手続き済みでしょうか？ 会費は、「協議会ニュース」作成及び配布、各種研修、観察会など、会の運営に使われます。

「忘れた！」という方は、さっそく金融機関で納入ください。会則では、7月末日で納入が未確認の場合は、会員名簿から削除になると同時に、各種特典を受けることができませんので、注意ください。 尚、詳細については各支部会計に問い合わせ願います。

(以上、事務局：近藤)

■ 会員名簿について

◆ 新たな会員を紹介します。

～ 活動に期待します！～

福岡 静子

〒458-0830

名古屋市緑区姥子山一丁目 1818

052-621-5553

◆会員名簿の記載漏れのため、追加願います。

石原 則義

〒464-0096

名古屋市千種区下方町 7-3 (052) 711-0387

◆住所・氏名の訂正を願います。

(電話番号変更なき場合は、記載せず)

荒巻 敏夫

〒441-1231 豊川市一宮町宮前 66 番地 4

岩沢 修

〒481-0045 北名古屋市中之郷南 146-2

酒井 勇治

〒485-0007

小牧市久保一色南 2-227-1

チエリーアウ、エニュー II -101

鈴木 恒男

〒480-0202

西春日井郡豊山町大字豊場字城屋敷 24-1

長谷川 明

〒489-0931

瀬戸市高根町 1-152-2

樋口裕子

〒486-0829 春日井市堀ノ内町 691-1

浮海 真弓 (旧姓: 荻川)

〒440-0033

豊橋市東岩田 3-10-7 エスボーラ東岩田 203
0532-63-2245

堀田 守・時子

〒465-0051

名古屋市名東区社が丘三丁目 808-3

行事予定

ふるさと親子自然観察

開催日時	集合場所	テーマ	問い合わせ先
7/30(日) 9:30~12:00	森林公园案内所	森林公园「夏の虫さがし」	(052) 772-4966 辻 愛子
9/18(休) 9:30~14:00	愛環鉄道山口駅前	海上の森「水辺の生き物と 雑木林の観察」	090-6077-5388 山口 健

フォローアップ研修

開催日時	集合場所	テーマ	問い合わせ先
7/29(土) 10:00~13:00	海上の森入口P (旧銭屋鉱産跡地)	水際の植物	0572-23-6907 大谷敏和
8/26(土) 10:00~13:00	海上の森入口P (旧銭屋鉱産跡地)	セミ・トンボ	

<編集部からのおしらせ>

- ◎協議会ニュースの編集スタッフに吉田孝三さん（知多支部）、牧野靖子さん（知多支部）が加わりました。編集や発送を担当していただけの方は、事務局までご連絡ください。
- ◎今月号から、この地域の自然に関する研究や保護活動に貢献された故人を紹介していくことにしました。最初は2月にご逝去された高木典雄さん（名大名誉教授）の紹介を西三河支部の三津井宏さんにお願いしました。引き続き、井波一雄さん、小柳津弘さんなどの紹介を予定していますが、他にも紹介すべき方がみえましたら推薦してください。
- ◎協議会ニュースに関するみなさんのご意見・ご感想や自然観察に関連する原稿をお寄せください。（送付先：下記編集部又はE-mail：BZA03620@nifty.ne.jp）
- なお、原稿は内容を変えない程度に加筆・修正することがあります。また、紙面の都合で掲載時期が遅れることがあります。あらかじめご了承ください。

編集後記

協議会ニュースの編集時期になんでも、今回は他に緊急の頼まれごとがあり、なかなかとりかかれませんでした。頼まれごととは、20日弱のうちに岩倉の生物のここ20年ほどの間の変化をまとめること。フィールドノートをひっくり返しながら、データ整理に追われていました。きちんと記録をとっておくことの重要性が身にしました。さて、終わってみると一つのまにかホタルの季節は過ぎ、セミの季節で、そろそろ9月号の企画を考えなければならぬ時期。時のたつのが早く感じられるのは歳のせいでしょうか。（齋竹）

表紙「ナメクジウオ」

写真・文 大羽康利

編集スタッフ

岩沙 雅代、近藤 記巳子、齋竹 善行、
永田 孝、古川 俊江、牧野 靖子、
横井 邦子、吉田 孝三

協議会ニュース編集部

〒470-2401

美浜町布土明山 299-2

永田 孝

愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 愛知県名古屋市南区鳥栖 2-6-17 桜本町 CH101

近藤 記巳子 Tel/Fax 052-822-7460